生命保険文化センター賞

大切なパートナー

秋田県　湯沢市立皆瀬中学校　一学年　阿部　成美

自分の〝将来〟に対して考える人は大勢います。しかし、マイナス面について考える人はあまりいないように私は思います。

例えば病気や事故等についてはどうでしょうか。それらを他人事のようにとらえ、自分は病気にかからない、事故や災害に遭遇しない――そんな変な思いこみが人にはあるように思います。

だから自分自身がマイナスの出来事に直面すると、その対策ができておらず、慌てることが多いのではないでしょうか。実際、私もそうでした。私は祖母の入院で自分の身内も病気になることを思い知らされました。そしてそれと同時に将来に対する準備の大切さ、保険の有り難さを学びました。

私の祖母の入院は突然の出来事でした。今まで健康で過ごしてきた祖母が病気になるという事実に私は戸惑いました。さらに祖母が手術を受けることを親から聞き、祖母の病気がかなり深刻であることを知り、私は青ざめました。そして今まで考えたこともない祖母の病気が私の心に重くのしかかってきました。私は不安で不安で仕方がありませんでした。

祖母が入院してから、私は何度もお見舞いに病院に通いました。入院中の祖母が早く回復できるよう、何でもしてあげたいと私は思いました。

私がお見舞いに病院に行くと、そこにはいつも沢山の人がいました。ある日、何気なく病院の会計窓口でお金を支払っている人を見ていて、私はふと疑問に思いました。

病院で診察してもらうとお金がかかります。祖母の入院費や手術代はどのくらいかかっているのでしょうか。

以前、社会の授業でアメリカでは病気になると莫大な医療費がかかると教えてもらいました。そのため、病院に行けない人もいるそうです。日本では公的医療保険制度が整っているので、自己負担があるものの、医療費は少なく抑えられるそうです。

しかし、そうはいっても、祖母の場合、長期間入院し、手術もしています。かなりの費用がかかっているように私は思いました。

もちろん、祖母が元気になるのなら、いくらお金がかかってもいいと思います。たった一人しかいない大切な祖母です。祖母の命に値段はつけられません。

それでも、もし、祖母の入院費や手術代、お金が足りないようでしたら、私は

今までためていた自分のお小遣いをその費用の足しにしてほしいと思いました。すると、親が保険に入っているから、心配しなくてもいい、と私に保険のことを教えてくれました。私はこの時、初めて保険の存在を知りました。

未来への安心――それが保険のよさではないかと思います。しかし、私達は保険に対して軽い抵抗感をもちます。その理由は目に見えないものに対してお金を支払うからです。普通、お金は自分の欲しいものに対して支払います。しかし、保険は目に見えないものにお金を支払うことになります。だから私達は軽い抵抗感をもつのではないでしょうか。そして自分だけは大丈夫――そのように自分の未来に対して変に過信すると、保険に対して向き合うことができないように思います。

しかし、〝絶対〟というのはないと私は思います。実際、私も祖母の入院でその〝絶対〟はないことを思い知りました。

〝未来への安心〟の投資――それが保険だと私は思います。そして〝もしも〟の事に対して私達は常に準備しておくべきだと思います。また、だからこそ私達は将来の〝もしも〟に対して、もっとしっかりと向き合うべきだと思います。保険の活用は自分の意識のもち方次第だといえるのではないでしょうか。保険は自分の人生の大切なパートナーです。